

平成27年1月30日

議員定数等に関する調査特別委員会

阿久根市議会

- 1 会 議 名 議員定数等に関する調査特別委員会
- 2 日 時 平成27年1月30日（金） 11時10分開会
11時36分閉会
- 3 場 所 議場
- 4 出 席 委 員 濱崎國治委員長、石澤正彰副委員長、出口徹裕委員、
仮屋園一徳委員、竹原恵美委員、松元薫久委員、
牛之濱由美委員、野畑直委員、大田重男委員、牟田学委員、
岩崎健二委員、木下孝行委員、鳥飼光明委員、山田勝委員、
中面幸人委員、（濱之上大成議長）
- 5 事務局職員 議事係長 東 岳也、議 事 係 寺地 英兼
- 6 会議に付した事件
・ 議員定数等に関する調査について
- 7 議事の経過概要
別紙のとおり

議員定数等に関する調査特別委員会

1月30日（金）

11時10分

審査の経過概要

調査特別委員長（濱崎國治委員）

ただいまから議員定数等に関する調査特別委員会を開会します。

本特別委員会では、11月12日に、各区長との意見交換会を行うことを決定し、さる1月19日に区長会の役員の方々ととの意見交換会を開催しました。意見交換会の概要記録は事務局より各委員に送付されております。

委員長としましては、現在の議員の任期は、4月23日までとなっており、前回の意見交換会の中でもおおむね、各委員からの考え方も出されたことから、2月26日開会の第1回定例会に向けて、委員会として一定の結論を出す必要があると考えております。

ここで、お諮りします。

本日、前回の意見交換会の内容を踏まえ、各委員の御意見を伺ったのちに、各委員よりそれぞれ、議員定数についての考え方を表明していただき、特別委員会として一定の結論を出したいと考えております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と発言する者あり。〕

ご異議なしと認めます。

よって、本日は前回の意見交換会の内容を踏まえ、各委員の意見を賜ったのちに、各委員より議員定数についての考え方を表明していただき、特別委員会として一定の結論を出すことに決しました。

それでは、前回の意見交換会の内容を踏まえ、各委員の御意見を伺いたいと思います。御意見ありませんか。

全体の意見をお伺いいたします。後で各委員のそれぞれの意見はお伺いしますので、意見交換会の内容を踏まえてですね、委員の方々の御意見があったら承りたいと思います。御意見ございませんか。

〔「なし」と発言する者あり。〕

それでは、次に各委員より、議員定数についての考え方を表明していただきたいと思っております。

まず、出口委員より順次、議員定数について、考え方を発言願います。

出口徹裕委員

私の考えからいきますと、議会、選挙に出る当初、議員定数を減らそうということで、取り組んでそれを言ってきたわけです。議会に入ってみると、今この議会自体がですね、いろいろ広報もしておりますが、かなりの公務といえますか、そういったようなものをおこなっております。

人数を減らすといった場合にはたして、今度は報酬についても考えなければならぬのではないかなど、今16人でやっておりますけれども、それを、例えば、極端に2人、3人、4人と減らしてきた場合に、それだけのものを今後しょって行くにおいては、今のままの報酬では随時出てくることとなりますので、ちょっと難しいのではないだろうかと思うことありまして、報酬を現状維持ということであれば16名のままが妥当かと思っております。それがないと市民の皆様にはですね、いろいろな広報、それから議会活動が見えるも

のがなかなかできていかないのではないかと思います。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、仮屋園委員、お願いいたします。

仮屋園一徳委員

私はですね、議員と語る会、前回の区長連絡協議会等の意見を踏まえ、現在の定数16のままでいいというふうに考えております。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、竹原委員、お願いいたします。

竹原恵美委員

この前の、区長さんたちの語る会の中では、いい時期に、10年かかっていい時期に、こう検討する時期にきたのではないかという御意見、そして、何が不都合かという、各地域から出てないということはおっしゃるけれども、実際その不都合を、はっきりと見えない状態、なので、増ではないと、まずそこで確認を私はしております。

そして、定数なんですけれども、2減、2つ減が適切かと思えます。そして、委員会については兼任という形も考えていく時期ではないかと思えます。以前は兼任はされないということがルール上決まっていたので、こういうスタイル、現の数というのが幅があったと思えますけれども、現状においては兼任していくスタイルをもう進めて、始めていいのではないかと考えます。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、石澤委員、お願いします。

石澤正彰委員

区長さん方にお出ましいただいてね、前回、お話を伺ったんですが、あれで本音が出たのかなという気もしておりますね、私はこの委員会が、特別委員会が、できた経緯がですね、減らすだけやなしに増やすのもという、それと現状というどちらでもいいわけなんですよね、要するに市民に対して議会としてどうするのかということですから、私は当初の選挙の時にですね、人員減を言っておりましたのでね、16から14と、それぞれの委員会が7名、7名になって、同数になった場合ですね、どうするんやっていうこともあるんでしょうけれども、委員長もおりますんで、そこまでは心配せんでいいんじゃないかと思えます。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、松元委員、お願いします。

松元薫久委員

もう、きょう、この特別委員会で、結論まで持っていくということで、果たして十分こう議論ができたかどうかという部分はいろいろ考えるところなんですけれども、区長連絡協議会の方々と意見交換会をした時にも言ったんですけれども、一部市民の方たちの中にはいまだ議会に対する不信感があって、このようまず陳情も出てきたんだろうと思えます。

幅広くですね、住民の意思を的確に議論の中に反映してですね、ある程度、住民のサービスに施策をうっていけばですね、いろいろなこういう不満もなくなっていくんだろうとは思いますが、私も前回の選挙で、議員定数を減らしますと言って立候補した経緯もございます。選挙の結果を受けて、議員の提案もできたとは思いますが、議会の構成上、なかなかそれ

が通るかどうかというのは難しいっていう部分も事実ありました。報酬に関してはですね、ここではちょっと関係ないですけども、提案して、結果を出せたという部分はあります。片方ではですね、ちょっと長くなりますけれども、今、地方創生ということで、権限や予算が移譲されてきますけれども、そこをチェックしていく行政の責任で仕事量も増えてくる中で、それを向き合ってチェックするべき議会が、議員の数を減らすということで力が少なくなっていくっていう考え方も感じています。この報酬削減、定数削減の考え方を持って私も議員になったわけですけども、6年あまり議員をしながらですね、年々忙しくなるのは事実、先ほど意見が出ましたけれども、あります。報酬に関してですね、子育てをしながら議員の報酬だけで食っていけるかどうかっていうのも疑問です。定数に関しては結論から言うと、減らせる部分はあると思っています。ただ、委員会、本会議含めて議会の形もですね変えながら語らないとですね、簡単に数を減らすということが住民にとって利益になるかということにはつながらないと思います。枕崎市も16名から14名に2名削減する。次の選挙で削減するようです。ただ、最初に言いましたとおり、議論がまだ十分行われていないような感じがして、時間もないんですけども、やはり我々で答えを出していいのかとも思いながらの削減の方向で考えていくべきなんじゃないかということで終わりたいと思います。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

あの、松元委員、何名削減で何名が望ましいとっていらっしゃいますか。

松元薫久委員

そこらへんまでの議論がまだ十分になされていないと思いますので、何名までは私は言えません。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、牛之濱委員、お願いします。

牛之濱由美委員

まず、結論から申しますと、私は現状、16名のままで維持していければという思いでいます。これは、私たちの任期もわずかではありますけれども、これは随時、その都度、その都度、その時の議員さんたちで話していくものなのかなという、区長さんたちの御意見を聞きながらそういう思いもしたところでした。また、反面ですね、果たしてこの議員定数、人数というものを議員が決めていいものなのかなという思いもあります、事実。そこには今後区長さん方、またそういう団体の皆様方から陳情なり、意見・要望等が出たら随時審議していく必要があるのかなという思いです。私の考えは現状のまま、その別件となりますけれども、この間の区長さん方と語る委員会の中でも話をちょっとさせていただきましたが、これはですね、先日、開かれました2市1町の市議会研修の中でも、ちょっと数名の議員さんとの話の中ですけれども、政務活動費があることによって、より議員活動というのが市民の皆様に見えるんじゃないかという思いでいるという議員さんが多かったというのを付け加えさせていただいて、私もそういう活動費ということが逆に市民の皆様、あ、こういう活動をしているんだ、こういうのに、そういう活動費を充てているんだというのが見えていくんじゃないかなという思いがありますので、今後、これもいろいろ検討課題に入っていくのかな

という思いでいます。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、野畑委員、お願いします。

野畑直委員

私も、前回の選挙の時にですね、議員定数については議論しなければならないという考えで、市民の考え方も定数削減の方向であり、市民の考え方が二分されていると感じておりましたので、定数については2人くらいは削減した方がいいのではないかなという思いで前回の選挙には臨んだというふうに自分では思っております。しかしながらですね、この4年近くの議員の中で今の議会では議会基本条例を制定して、議会報告会をするようになりました。そしてまた、次回から広報委員会も立ち上げて常任委員会の中に入れると、そういうふうに考えた時に、この前の区長会の連絡協議会の中でも申しましたけれども、常任委員会だけでなく、市民がよくわからないところは、北薩広域議会とか、消防議会とか、そういうものも含めて、必要人数というのがそれぞれおのずと委員長等決まってくるということで、この前も申し上げましたけれども、私の今のこういう役職というか、係とすれば17名ぐらい必要っていうふうに考えております。4年たって議員をした中でこのように議会が取り組んでいって、今後ますます活発に活動するためには現状維持は必要不可欠ではないかと思っておりますので16名が妥当と考えます。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、大田委員、お願いします。

大田重男委員

まず、先に結論申し上げます。私は現状維持です。この前区長会の役員の皆さんの意見を聞いてですね、特段議員定数削減という話はなかったみたいなんです。私は議員定数の削減自体その人口だけでなく、やっぱり面積も考えなくちゃいけないだろうと思っております。多くですね、市民の声を吸い上げて、市政に反映するのも議員だし、またチェック機能をですね、低下の、議員定数を削減するとチェック機能の低下というものが出てくるんだと思っております。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、牟田委員、お願いします。

牟田学委員

私も前回の選挙の時に定数削減を訴えて選挙をしてきた一人であります。それから4年たってですね、先ほど8番議員も言われたとおり、議会で基本条例を作りですね、いろいろな今活動をやっているわけです。そして、昨年アカデミー研修に行った時に、大学の講師の先生がですね、地方議会はその人数を、議員定数を減らすだけではいけないという話も聞いて参りました。そして、今、今度ですね、市民交流センター、広域行政の新プラント建設、いろいろと重要な物件が出て参ります、そうした中で定数を削減して、ちゃんとしたチェックができるのかと、今回、第1回定例会に間に合わせないかなんということですので、私の考えは現状維持、16名で今回の選挙をやって、また、次4年でいろいろ議論したらいいのかなというふうに考えております。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、岩崎委員、お願いします。

岩崎健二委員

結論から申しますと、現状のまま行かざるを得ないのかなと考えております。前回の区長会との話し合いの時にも私申し上げましたが、議員の数を論議するときにもいつも何人削減するんだという論議がありますが、これは間違っとなる。阿久根市の現状、あるいは、面積、人口、産業等々考えた上で、何名が適当なのかというのをまず議論すべきであって、頭から削減を何人すべきかというのを議論するほうは私は間違っとなるというふうに主張したところなんです。そういきますと、私の個人的な考えだけでいきますと、16名は少ないと思いますが、増というのになりますとなかなか難しいことあるかと思っておりますので、現状のままやむをえないと思っております。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、木下委員、お願いします。

木下孝行委員

私の、4年前からというか、定数に関しては一貫した考えを持っておりまして、現状で私はいいと思っております。理由としましては、市民の声を多く吸い上げて市政に反映するのであればやはりこの16名というのは守っていかなければいけない定数の数字じゃないかなというふうに思っております。削減した場合の弊害としましては、委員会等々の構成もありますけれども、少なくするということは基本的には議員の考えが偏っていくという、ある意味そういったケースになりかねないというようなことも考えておりますので現状がいいのかなというふうに思っております。そして、付け加えて、もうひとつこの前の区長会等でも話がありましたように、6番議員と一緒にですね、政務活動費というのも今後はより議員のレベルアップ、そして、研鑽を積んでいく中でも、そしてなおかつ市政に反映させていくためにも活動費の復活というのは私は大事じゃないかなというのもありますので、そこらも今回の中で、結論の中でもし出せたら出してもらいたいなと思っております。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、鳥飼委員、お願いします。

鳥飼光明委員

私はもう勇退する身でありますので、発言は差し控えようと思っておったんですが、全員がこういう発言を許していただきましたので、発言させていただきましたが、いろいろこの陳情が出たあと、私も市内いろいろな所を聞いて回りました。賛否両論必ずあります、市民は、その中でもやっぱり3分の2くらいは、もう減らしていいんじゃないかと。それは理由として、議会を見ても、いろいろ見ても発言しない議員もいるんじゃないかと、16やろうが14じゃろうが18じゃろうがあんまり変わらんやないかという意見が非常に多かったようです。ただ、問題は議員の質だと思っております。そういうことからして、16人がいいのか、14人がいいのか、ましてや18人がいいのか、私どもにははっきりとどの数字が一番いいというのはわからないわけでありまして。そこで私が申し上げたいのは、今阿久根市は、一般の人から発表されております、（聴取不能）から2040年は、1万から1万5千の間、阿久根なんかはそういう発表されております。ゆくゆくは阿久

根市という地名まで、市の名前までなくなるんじゃないかということも心配されております。そういうことからしますと、今、議員がしっかりと行政と手をつないでやらなければ、阿久根市の将来は見えないといういろいろな私は思っております。そういうことからして議員定数については現状維持でやっていただいて、そして、もういっぺんこういう市民の批判があるということ肝に銘じて議員活動をやっていただきたいというふうに思っております。皆さん方の活躍をご期待しております。以上で終わります。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、山田委員、お願いします。

山田勝委員

議員定数はですね、私も議員定数削減を公約に掲げました。会議をしてみてもですね、これ以上少なくしたらですね、会議にならんという気がしてならないんですよ。だからね、なるべく多くの人で議論をして、そして阿久根市の将来をですね、阿久根市について、ほんとに責任を持ってみんなやっていかないかんという気がしますので、議員定数は今のままで、そして精一杯の議員活動を皆して欲しいと思っています。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

次に、中面委員、お願いします。

中面幸人委員

結論を言えば私はもう2名減でも良いと思っています。この間区長会との意見交換会もありまして、区長のほうからはですね、現状のままでいいんじゃないかというふうな大半の意見でございましたけれども、私が接している市民の皆様の考え方はやはり減の方向がやっぱり多いような気がいたしております。そういう中でまた今16名からですね、14名に減っても今までどおりですね、市の運営にはそう大した影響はないのではないかと考えておりますので、そういうふうには思っております。以上です。

調査特別委員長（濱崎國治委員）

委員より、議員定数についてのそれぞれの考え方を表明をしていただきました。それぞれいろんな意見があるということも認識しました。

各委員の御意見を整理をいたしますと、現行の16名が望ましい、少なくとも16名が望ましいという意見の方が10名であります。2人減らして、14名という方がお三人ですね。それから、減らす必要があるということはありませんが、何名がいいかわからないという方がお一人ということで、これも減らすという考え方からしますと、10名の方が現行、4名の方が14人ないしは減らすという考え方に意見を整理できるんじゃないかというふうに思います。したがって、現行の議員定数16名が望ましいという意見が多数となっております。

本特別委員会は、議員定数等について調査・検討を行うために設置されたものであります。

ここでお諮りします。

本特別委員会の調査結果としまして、現行の16人が望ましいという意見が多数であり、その他の少数意見についても併せて、来る第1回定例会において報告したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と発言する者あり。〕

ご異議なしと認めます。よって、本特別委員会の調査結果としまして、現行の16人が望ましいという意見が多数であり、その他の少数意見についても併せて、来る第1回定例会において報告することに決しました。

以上で当特別委員会に付託されました調査事項はすべて議了しました。

ここでお諮りします。委員会審査報告書の作成及び委員長報告につきましては、委員長にご一任願いたいと思います。

これにご異議ありませんか。

[「異議なし」と発言する者あり。]

ご異議なしと認めます。よって、委員会審査報告書の作成及び委員長報告につきましては、委員長に一任されました。

以上で議員定数等に関する調査特別委員会を閉会いたします。

ごくろうさまでした。

(散会 11時36分)

署名 議員定数に関する調査特別委員会 委員長 濱崎 國治